

---

# 留学日記

山本甲児

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

留学日記

### 【Nコード】

N0728C

### 【作者名】

山本甲児

### 【あらすじ】

主人公はアメリカ留学へと出発する。アメリカの小さな町には意外にも20数名の日本人がいた。そこで出会う日本人やアメリカ人やその他の外国人とおもしろおかしくもヘビーな学生生活は始まった。

## 第1話、アメリカへ出発

成田を出て約半日、飛行機はようやくシカゴのオヘア空港に着いた。しかしながら、ここからまた乗り継がなければ目的地には到達しない。案内板を見ながら、なんとか乗り換え機の受付カウンターにたどり着いた。

ぼくはときどきしながら受付の女性に英語で尋ねた。

「すいません、マリオンへの飛行機に予約してる者ですが」

「ハイ ボーイ 残念だけど、その便はキャンセルになったわ、また明日来てください」

「はあ？」 思わず日本語でしゃべってしまった。

「どうしてキャンセルになったんですか？こんな天気の良い日に」

「パイロットが急用で休みだそうよ 運が悪いわね」

まじかよ！ 明日まで便はない どこかに泊まらないと、いや待て、荷物が無いぞ、スーツケースは乗り継ぎの飛行機まで運ばれてるはずだ。

ボクは受付に再び行き、スーツケースを返してくれるように言った。しかし、キャンセルになったので荷物係の人も休みを取ってしまったので、今日は荷物は受け取れないとの返事だった。

なんてこった。飛行機は飛ばない、荷物はない、シカゴで一泊かよ。まいったな ボクの留学初日は散々だな！ 「まあ現金は身に付けていて正解だったな、しょうがないから宿を探そう」

空港内のホテル案内の中で一番安いホテルを探し、ボクはそのホテルにチェックインした。

部屋は何かカビ臭く、ベッドもお風呂も汚いものだった。 近くの

バーガーキングでハンバーガーを食べ、シャワーを浴びベッドに横になった。

「あー さすがに疲れたな これから4年間もすごさなきゃならないのに 大丈夫かな？」

そんな独り言を言っているうちにボクは眠りについた。

あくる日、オヘア空港に行き、再びあのカウンターをたずねた。

「ハロー」

「ハロー、ボーイ 昨日は運がなかったわね、今日は大丈夫よ」  
きのうと同じ女性が明るく言った。

「そう、そりゃよかった、もうホテル代は使わなくていいんだね」

「OK、いい旅を」

女性はチケットをボクにくれた

「サンキュー」

飛行機を見て、ボクは愕然とした。 それはセスナに毛が生えたようなシロモノだった。

（おいおい、これで飛ぶのか？）

小さな入り口から中に入ると、パイロットらしいおじさんが聞いてきた。

「お前何ポンドだ？」

「え？何」

ボクは聞き返した

「何ポンドだ？体重だよ」

「体重、ポンド わからないな えーつと60キロくらい」

「60キロ OK、お前こっちに座って」

ボクは言われるまま 右側の席に座った。

席と言っても、全部で12席くらいしかないのだが・・・ 真ん中の

通路を挟み、6席が両側にあるのだ。　その後もパイロットは乗ってくる客に体重を聞いていた。

「はい　あなたはその右の席、おばさんは左ね」

ボクはその行為の意図によく気づいた。　左右のバランスを取るために体重を聞いてるんだ。　（そんなこと聞かないと飛べないくらいやばいのか？）

ボクは急に不安になった。　そしてその不安はさらに大きくなった。12人の客全員が座った後、パイロットがスイッチをいじり始めたのだが、マニュアルらしきものを見ながらやっているのだ。

「これは何だ、これでいいのか？　まあいいだろう！」

その言葉を聞いた時、ボクは降りようと思ったが。

「みなさん、お待たせしました、この飛行機はまもなく飛びます」とパイロットが言った後、乗客が歓声をあげたのだ。

そして拍手、（何なんだ　アメリカの飛行機は　お母さん　先に死んだらごめんなさい）

そんなことを思いながら、再びボクは機上の人になった。

2時間後、飛行機は着陸したがオーバーランしてフェンスに少し接触した。　冷や汗をかきながら、飛行機からボクは降りた。

「やれやれ、ようやく着いた。　まじに死ぬかと思ったぜ」

なにはともあれ、これからこの町で4年も暮らすんだ。　がんばろう！

荷物を受け取り、タクシーを拾い、ボクはようやく留学先のセントジョージ大学にたどり着いた。

大学の事務で、寮の場所を聞き、寮にたどり着いた。

「あーここか　意外にキレイじゃん、　フォーレストホールっていうのか」

「えーっと、203号室はどこだ」

寮は全部で30部屋くらいある小さなものだった。　2部屋に一つ、

シャワーとトイレがあつた。これを隣の人とシェアするらしい。

自分の部屋のドアを開けると、そこにはベッドと机があつた。広さは6畳あるかないかぐらいだ。

「わりといい部屋じゃん」 ボクはベッドに横たわつた。

「布団とか買つてこないとな・・・ 布団とかこつちにはないんだっけ とにかく寝具買わないと・・・ どこで売ってるんだろ？」

そんな独り言を言つてると、隣から異様な声が聞こえてきた  
「アイアム ワーワーワー」

何か歌を歌っているが、何を言ってるかはわからない。

隣人

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0728c/>

---

留学日記

2010年12月28日14時27分発行